プレス・リリース

インフォシス・メタバース・ファウンドリーの始動:
バーチャル・フィジカル相互接続に向けて企業戦略を策定・実行する能力を高速化

インフォシス・メタバース・ファウンドリーは Infosys Living Labs の不可欠な要素

企業が新たな優先事項や市場動向へ対応するためのデジタル革新アジェンダを推進

また、インフォシスはメタバース・ファウンドリーを自社のグローバル企業内大学の拡大にも利用、

現在の Wingspan プラットフォームからメタバースへの移行を予定

バンガロール (インド) - 2 月 24 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーであるインフォシス (NYSE: INFY) は、本日、企業のメタバース参入を容易にし、迅速化するインフォシス・メタバース・ファウンドリーを始動しました。これには、導入企業の顧客、ワークプレイス、製品およびオペレーション向けの仮想環境および拡張環境が含まれています。インフォシス・メタバース・ファウンドリーは、領域専門性とデザインの専門知識、プラットフォームとデジタルアクセラレーターを、充実したクリエイター・パートナー・エコノミーの強力な関係性を利用して融合させます。企業はタップひとつでこうした機能の融合をサービスとして利用でき、拡大縮小の柔軟性によって、思い通りに参入を果たすことができます。これにより、自社のメタバース環境をセキュアかつ効率的に作成するための、オンデマンドな能力が提供されます。また、既存のメタバースの特徴的な経験を提供し、AI による高度なアナリティクスとシミュレーションにより、インターネットの進化と共に変遷しつつある自社のありたい姿の実現をもたらします。

インフォシス社長の Ravi Kumar S は次のように述べています。「フィジカルとバーチャルの世界はすでに滑らかかつ遍在的な形で相互に織り込まれています。メタバースはこうした重なりをいっそう深め、また非常に実験的な方法で、ビジネスの革新のための豊かな空間を創り出すものです。当社は、この急速に進化する空間に対応するために、お客様の機能、プロセス、社内文化の方向性が変わることに先んじて、いち早く見つけ、より速く学ぶ環境でそれらの機会への投資を強化し、お客様のお役に立ちたいと願っています。」

インフォシス・メタバース・ファウンドリーは、企業のメタバースへの進出を、「発見-作成-拡大」のサイクルを通じてお客様のパートナーとなり支援します。

100 以上のすぐに適用可能なユースケースとテンプレートでメタバースの価値を発見

インフォシス・メタバース・ファウンドリーには、没入型のインタラクティブな体験デザインにおける、インフォシスの業務領域専門性と専門知識が盛り込まれており、企業はこうした専門性をユースケースやビジネスケース、実行ロードマップという形で利用できます。企業は AR/VR、ブロックチェーン、NFT、IoT、AI の応用、サイバーセキュリティ、5G などの力を利用して、メタバース内の価値探索を促進します。たとえば、多くの大企業が好んで利用するテンプレートは、没入型リテール体験の構築です。そこではショッピングに訪れた人々がブランディングされたメタバース環境の中を探索し、NFT として商品を購入するか、またはオンライン・チェックアウト・カウンターに接続して、フィジカルの世界で配送を受けられるよう購入したりします。

インフォシスのプラットフォームとアクセラレーターでメタバースを作成し接続

Infosys Living Labs の複数階層型デジタル・インフラストラクチャは、テクノロジー、プロセス、人々で構成され、ソリューション設計、没入型体験を構築するためのプラットフォームやアクセラレーターなど、複数のメタバース・テクノロジー投資を包摂しています。これらの投資は、魅力的な環境やデジタル・レプリカの迅速な作成を実現すると同時に、エンタープライズ・データ API および 360/3D 資産管理システムとの統合を促進しています。AI およびエンジニアリング・プラットフォームで複雑なフィジカル・オブジェクトのデジタル・ツインを構築し、これをシミュレーションにも利用可能です。たとえば、インフォシス XR プラットフォームを運用中のある大手製薬会社は、同社のワクチンラボのデジタル・ツインを作成し、品質エンジニアがこれを利用して重要なワクチン培養データにアクセスし、予測や意思決定を行います。また、インフォシス・メタバース・ファウンドリーは、フィジカルとデジタルの世界の橋渡しとなるマーケットプレイスとしても活用でき、すべてはインフォシスのデジタル・センター内で行われます。さらに、インフォシスは XR プラットフォームを自社の複合現実機能の立ち上げにも活用しました。この機能は、高度に没入型の空間に顧客を迎え入れ、協働や共創を行うものです。

多様なクリエイター・パートナーと共にアイデアをスケールアップし可能性を拡張

インフォシス・メタバース・ファウンドリーにより、企業はインフォシス・イノベーション・エコシステムのあらゆるクリエイターと協働し、パイロットから本番運用への拡大をスムーズに行ったり、プロトタイプ段階でより多くの選択肢を追加し、将来にも利用できるよう投資のリスク低減を図ったりすることが可能です。たとえば、ある技術コンサルティング会社はインフォシスのメタバースを利用して、没入型の複合現実ワークベンチのプロトタイプ作成を行い、豊かな 3D アセットとして表現される将来の技術構築サイトの調査を実施しました。この機能は、インフォシスの長年におよぶパートナーである Microsoft が即時のサポートを提供する Azure の高性能クラウドにおいて、グローバルに活用されることを目指して進化しスケールアップしたものです。

インフォシス・メタバース・ファウンドリーの力を利用して、インフォシスは現在 Infosys Wingspan プラットフォームで運用中の自社のグローバル企業大学を拡張し、メタバースへと移行します。これにより同社の従業員は、フィジカルとバーチャルの学習空間をシームレスに移動しながら、共に学習する仲間や教育担当者との魅力的なやり取りや思いがけない出会いが産み出すメリットを得ることができます。この環境には、ハイブリッド図書館、ヒューリスティックスにより進化したバーチャル・クラスルーム、ゲーミフィケーション学習やデジタル・ツインにより、複雑な概念をより良く理解できる仕組みが含まれます。

複数の企業がすでにインフォシス・メタバース・ファウンドリーのメリットを獲得しています。

テニス・オーストラリアのパートナーシップおよび国際事業担当ディレクターの Korey Allchin 氏は次のように述べています。「これまでのグランドスラム大会で初めて、私たちは 2021 年にインフォシスの支援により全豪オープンでのショッピング体験を再創造し、ファンにエクステンデッド・リアリティ型の店舗を提供しました。テニスファンは、T-シャツ、ビーチタオル、帽子、ラケットなどのお気に入りのアイテムのすべてをバーチャル世界で購入し、リアルな世界に持ち帰ることができるようになりました。デジタルとフィジカルのシームレスなつながりが、ファンの皆さんの体験の進化において、より一層重要になっています。同時に、移動が非常に厳しく制限されたパンデミックの期間中に、インフォシスの支援により当社のビジネスパートナーを対象としたデジタルプラットフォームである全豪オープン 2021 バーチャル・ハブを作成し、全豪オープン・イベントのコンテンツや体験を世界中のご自宅やオフィスにお届けできました。」

小松製作所のグローバル IT 採用およびデジタル・イノベーション担当責任者の Daniel Schumacher 氏は次のように述べています。「当社の戦略的予測・変革ロードマップは、今日ある姿と、未来に向けて当社が作り出せるものの、

両方のデジタル・エコシステムを急速に進展させることを目指しており、当社事業のあらゆる側面にその価値をもたらしたいと考えています。当社はインフォシス・メタバース・ファウンドリーとのパートナーシップにより、バーチャル世界において当社が必ず行わなければならない最も重大な投資を公表し、将来の果実を最も多くもたらす種を今日にもまくことを、たいへん喜ばしく思います。」

フランス・テニス連盟のマーケティングおよび事業開発担当副最高経営責任者である Stéphane Morel 氏は次のように述べています。「当連盟のデジタル・イノベーション・パートナーとして、インフォシスはこれまでで初めて、インフォシス・ファンゾーンに設置されたローランギャロスのセンターコートで、バーチャル・レクリエーションのテニスをプレーするなどの複合現実体験をテニスファンに提供しました。また、全仏オープンの期間中、ファンの皆さんはこのスペースの中で、自分たちのアバターがバーチャル世界に入り込み、他のファンとデジタルに交流したり、バーチャル・オブジェクトを利用して関わり合ったり、お互いに対話をしたりする機会を得ることもできたのです。」

インフォシス・メタバース・ファウンドリーの概略については、こちらの動画でご覧いただけます。

ここをクリックして、Philip Rosedale 氏と Ravi Kumar の対談をご覧ください。

詳細は、https://www.infosys.com//services/metaverse.html をご覧ください。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、 世界 50 か国でお客様のデジタル変革を実現しています。40 年近くにわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NSE、BSE、NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長と今後の配当、財務的期待、当社の従業員、顧客およびステークホルダーへの COVID-19 の影響を管理するための計画を予測するものであり、そこには多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく

異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素、その拡散を抑制するための政府およびその他の対策の効果、インド、米国、世界のその他の国々の景気低迷や不況に関連するリスク、政治、ビジネスおよび経済環境の変化、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。将来の営業業績に影響すると考えられるその他リスクについては、2020 年会計年度年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov.でご覧いただけます。当社は、米国証券取引委員会および株主への報告書内の情報を含め、書面または口頭で将来の展望を随時発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先:

インフォシスリミテッド　日本支店
マーケティング本部長　安藤　jo_ando@infosys.com